

産業観光企業委員会行政調査報告から

【浜松市】

NHK大河ドラマ放映に向けた取り組みについて

1. 直虎プロジェクト推進事業の概要

(1) 目的・背景について

平成29年NHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」の放映を契機に、その舞台となる浜松地域及び静岡県西部地域の歴史・文化を全国に発信するとともに、観光振興による地域経済の活性化を図るもので、29年1月の大河ドラマ放映開始に伴いオープンする「おんな城主 直虎 大河ドラマ館」などにより、観光啓発、誘客宣伝を図るとともに、交通安全対策を実施し、来訪者の満足度向上及び持続可能な観光振興を目指している。

(2) 事業目標について

大河ドラマ館来場者数：50万人、29年度観光客数：2,100万人（27年度：1,850万人）

（参考）大河ドラマ放映に伴う経済波及効果：179億円 ※日本銀行静岡支店試算

(3) 重点的施策について

① 啓発受入

郷土の偉人である「井伊直虎」について広く周知し、市民の歴史認識を醸成するとともに、地域資源を活用した商品開発等により、来訪者へのおもてなし体制の整備を行う。

② 誘客宣伝

「おんな城主 直虎」の舞台である浜松地域及び静岡県西部地域の歴史・文化を全国に情報発信し、地域内外からの誘客を拡大する。

③ 環境整備

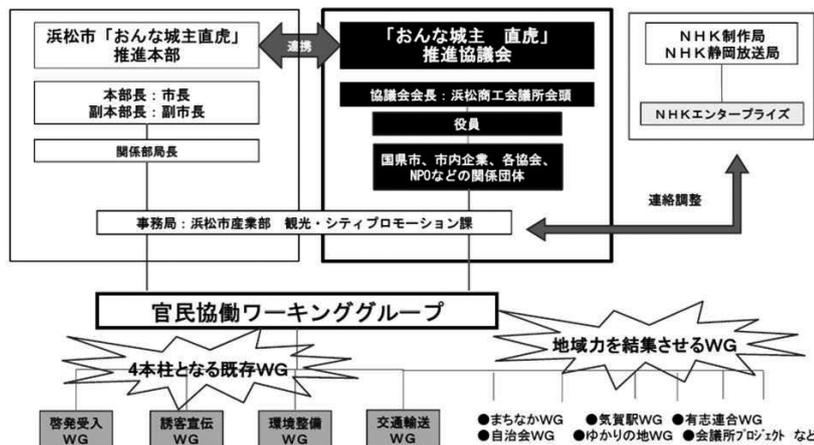
来訪者に浜松地域の魅力を知ってもらうための環境整備と、地域内外に点在する直虎ゆかりの地を周遊できる仕掛けづくりを行う。

④ 交通輸送

交通計画を策定し、安全で円滑な交通輸送の実現を目指す。

(4) 推進体制について

浜松市「おんな城主 直虎」推進本部と官民組織である「おんな城主 直虎」推進協議会が連携して実施。官民協働のワーキンググループとして、柱となる4ワーキンググループに加え、地域力を結集させる個別ワーキンググループを設置。



(5) 浜松市の大河ドラマ関連事業費について

① 総事業費

(単位：千円)

区 分	27年度	28年度	29年度	合 計
直虎プロジェクトの推進	148,984	490,901	482,952	1,122,837
環境整備（市中心部）	0	41,762	27,300	69,062
環境整備（大河ドラマ館関連）	74,282	317,005	294,830	686,117
観光啓発	38,108	71,535	92,294	201,937
誘客宣伝	30,860	60,599	63,038	154,497
事務費等	5,734	0	5,490	11,224
地域遺産センターの整備	118,556	37,100	0	155,656
道路の交通安全対策	37,000	254,000	0	291,000
その他関連事業	27,730	8,814	1,911	38,455
城跡整備活用事業	16,219	104	0	16,323
天竜浜名湖鉄道市町負担金	0	5,380	0	5,380
地域力向上事業（北区）	4,682	0	0	4,682
その他	6,829	3,330	1,911	12,070
合 計	332,270	790,815	484,863	1,607,948

② 29年度予算

(単位：千円)

区 分	事業費	事業内容及び内訳
直虎プロジェクトの推進	482,952	
環境整備（市中心部）	27,300	「浜松出世の館」運営費等 19,500 「直虎インフォメーション」JR浜松駅コンコース内」 運営経費 7,800
環境整備 （大河ドラマ館関連）	294,830	大河ドラマ館運営，展示入替え，撤去等 190,650 来場者交通対策，シャトルバス運行等 92,890 トイレ整備，維持管理 11,290
観光啓発	92,294	マスコットキャラクターの活用 28,944 NHK共催イベント（3回）・直虎サミット 22,000 家康公祭りにおける直虎プロモーション 15,000 等
誘客宣伝	63,038	ノベルティグッズ作成，広告宣伝 21,500 旅行会社ウェブ特集ページ作成 12,200 JR東海連携誘客キャンペーン 7,000 等
事務費等	5,490	推進協議会負担金，経済波及効果の測定
その他関連事業	1,911	
合 計	484,863	

2. 大河ドラマ館等の概要について

(1) 大河ドラマ館について

- ① 正式名称 井伊直虎ゆかりの地浜松「おんな城主 直虎 大河ドラマ館」
- ② 設置場所 浜松市みをつくし文化センター（浜松駅から約50分 北区役所隣の市施設内）
- ③ 設置期間 平成29年1月15日～30年1月14日
- ④ 開館時間 9:00～17:00（休館日なし）

⑤ 入館料金（過去の大河ドラマ関連施設（500～600円）と同水準で設定）

種類	区分	前売券	当日券	備考
普通	大人	480円	600円	高校生以上は大人とする
	小・中学生	240円	300円	—
割引	一般団体割引	大人	480円	有料入場者20名以上の構成団体
		小・中学生	240円	
	障害者割引		無料	障害者手帳、養育手帳等を所持する者と付添人1名
	未就学児		無料	—

※入場券販売管理業務を㈱JTB中部に委託。JTB各支店のほか、コンビニ等で販売

⑥ 施設概要

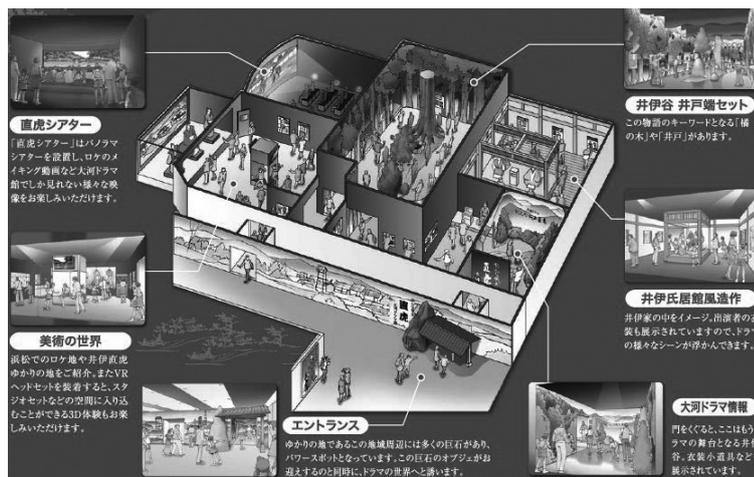
ア 館内 VR体験ができるブース、ロケ時の映像が流れる直虎シアター等（4、5、7、10月にリニューアルを実施）

イ 駐車場 自家用車・バス供用の第1駐車場と土日祝日のみ解放の第2駐車場を設置。団体バスは事前予約制（駐車料金2千円）。繁忙時は臨時駐車場も設置。

⑦ 入館実績等

ア 前売券の販売枚数：27万5千枚

イ 入館者数：41万7千人（7/16現在） ※当初想定の1.7倍のペース



館内の案内図

(2) 浜松市地域遺産センターについて

① 設置場所 浜松市引佐協働センター2階（井伊家ゆかりの井伊谷に所在）

② 設置期間 平成29年1月15日～30年1月14日

③ 開館時間 9:00～17:00（12/29～1/3休館）

④ 入館料金 無料

⑤ 施設概要 井伊谷の地形的特徴等をVR体験で紹介する等、ビジターセンターの位置づけ

⑥ 入館実績 5万人（29年7月現在） ※近隣の井伊谷城跡、天白磐座遺跡等も賑わう

(3) 浜松出世の館について

① 設置場所 JR浜松駅北口近く（遠州鉄道高架下のべんがら横丁跡地）

② 設置期間 平成29年1月8日～30年1月31日

③ 開館時間 10:00～19:00（無休）

④ 入館料金 無料

- ⑤ 施設概要 井伊直虎や徳川家康ゆかりの地，市内の魅力ある観光地を紹介するとともに，直虎関連グッズ，やらまいかブランド等のオフィシャルグッズ，地場製品の販売。直虎・家康公ゆかりの展示や楽器，輸送機器，光電子など地場産業紹介展示。戦国時代や武将等のパネル展示やコラボ企画（スタンプラリー等）
- ⑥ 入館実績 10万人（29年6月23日現在） ※市中心部の観光拠点として賑わいを創出



(4) 観光インフォメーションコーナーについて

- ① 設置場所 JR浜松駅構内（新幹線改札正面）
- ② 施設概要 鉄道利用者に対する観光施設等の案内人を配置し，直虎ゆかりの地等へ誘導

3. 重点的施策の取組状況について

(1) 啓発受入（市民協働によるおもてなし）

① 市民ボランティアの活用

市民一人ひとりが直虎プロジェクトに参画できる機会を提供し，市民協働によるオール浜松体制のホスピタリティを確立する。

- ア 大河ドラマ館周辺等における誘導，監視等
- イ 簡単な観光情報等の提供

② 観光ガイドの養成

旅行の満足度を高めるとともに，ドラマ放映終了後の観光資源として養成

- ア 大河ドラマ館や井伊谷周辺で団体ツアーなどに同行
- イ 浜松駅構内の観光インフォメーションセンターに配置し，浜松城等を案内

(2) 誘客宣伝

① 「井伊直虎ゆかりの地 浜松」PRロゴマーク

観光客への誘客宣伝と商品へのロゴマーク活用により地域活性化を支援するもの。市内のデザイン会社やプロのデザイナー8者17点の中から決定。

商標登録 28年11月11日

使用承認の状況 28年度：304件（うち商品106件）
29年度：35件（うち商品5件）



PRロゴマーク

- ② 「井伊直虎ゆかりの地 浜松」PRマスコットキャラクター
観光客への誘客宣伝と商品へのデザイン活用により地域活性化を支援するもの。全国公募を行い、1,607点の中から「出世法師直虎ちゃん」に決定。

商標登録 29年6月2日

使用承認の状況 28年度：1,074件（うち商品331件）

29年度：171件（うち商品43件）



出世法師直虎ちゃん

- ③ モデルコース作成
28年4月にモデルコースを作成し、旅行会社への営業を実施。
(例)大河ドラマコース、浜名湖コース、女子旅コース 等
- ④ 旅行会社へのPR
ア 大手旅行会社が発行する個人向けパンフレットへの掲載や大河ドラマの専用パンフレットに対して広告を掲載
イ 大都市圏（東京、大阪、名古屋等）の旅行会社を招聘し、旅行商品造成の支援を行う旅行会社ファムトリップを実施（市：約20名、県観光協会：約20名（28年3～4月））
ウ 大都市圏で開催される観光説明会や商談会に参加し、旅行会社等への営業活動を実施
- ⑤ 一般（メディア）向けPR
ア 井伊直虎特設サイト（HP） ※28年3月開設
人物像、ゆかりの地、アクセス、ロゴマーク、大河ドラマ館情報、モデルコース等の情報を掲載（アクセス数 28年4月：4,447ビュー ⇒ 29年1月：290,198ビュー）
イ メディアを対象としたファムトリップの実施
大河ドラマ放送開始のタイミングでメディアへの露出を図り、認知度向上に努めた
ウ 関連書籍やWEB広告等の掲載によるPR
旅行雑誌や歴史雑誌、TV雑誌への広告等の掲載やタイアップ企画を実施。全国版、関東版、東海版を中心に40誌以上で特集等を掲載

(3) 環境整備

- ① ゆかりの地看板の設置
市内の井伊家及び家康ゆかりの地56か所中、23か所に案内看板を新規設置
- ② 観光トイレの設置
来訪者へのもてなし機能の強化のため、観光トイレの設置・改修を実施
- ③ 体験型コンテンツの整備
レンタサイクル、舟運、VR体験、戦国BASARAとタイアップしたスタンプラリー
- ④ 関連イベント
家康公まつり（演劇演武等の披露）、直虎フォーラム（直虎の命日にPRイベント）、カウントダウンイベント、大河ドラマ館オープニングイベント等の開催
- ⑤ 広報関係
「広報はままつ」で28年度の1年間直虎特集を掲載、Facebook等で直虎情報を適宜配信
- ⑥ 博物館等の文化施設等における企画展
- ⑦ その他
ア 市主催、後援、共催事業でロゴマーク等を活用した「いい直虎プロジェクト」の実施
イ 観光パンフレット、のぼり旗、ノベルティ（ピンバッチ、うちわ、シール等）の作成
ウ 浜松駅バスターミナルへのコインロッカーの設置

(4) 交通輸送

- ①大河ドラマ館及び井伊谷地域は、高速道路のICからのアクセスがよく、自家用車での来場が多いため、駐車場の整備だけでなく、交通集中を防ぐ誘導等について関係機関と協議
- ②公共交通機関での来場を促すための広報、誘客を強化

【岐阜市】

岐阜市新水道ビジョンについて

1. 岐阜市水道事業の概要について

岐阜市は清流長良川畔に発達した都市で、良質な地下水が豊富にあり、そのまま飲み水として利用されていたが、大正中期ごろから工場排水や家庭からの排水による井戸への影響が問題となった。昭和初期には、衛生的な文化都市として発展していくため、水道の建設が提案され、昭和3年、長良川左岸（鏡岩水源地）に浅井戸を造り、伏流水を水源として旧岐阜市内南部全域（計画給水人口55,000人、一日最大給水量6,105立方メートル、総事業費820,115円）に給水可能となる創設工事に着手し、5年3月に一部給水を開始後、9年3月に完成した。

その後、20年7月9日の第2次世界大戦大空襲により市街地の約80%が被害を受けたが、順調に復興が進み、人口の増加、市勢の拡大、生活様式の近代化、産業の興隆発展による水需要の増加にあわせて、水源地の建設や配水管網の整備拡充を行うとともに、昭和62年から平成17年にかけて、32箇所の簡易水道を順次上水道と統合し、安定給水を図ってきた。また、18年1月には柳津町との合併に伴い、水道事業の統合を行った。

2. 岐阜市新水道ビジョンについて

(1) 策定の趣旨と位置づけ

拡張整備から維持管理の時代へと移行しつつある中、①少子化による人口の伸び悩み、②生活様式の変化、③節水機器の普及等による水需要の停滞、④老朽化施設の更新需要の増加、⑤大規模地震や異常気象等の自然災害や水質汚染事故に対する危機管理対策等の課題を抱えるとともに、20年に策定、公表した「岐阜市水道ビジョン」について、策定から8年が経過し、事業環境の変化を前提とする新たな課題が生じてきた。

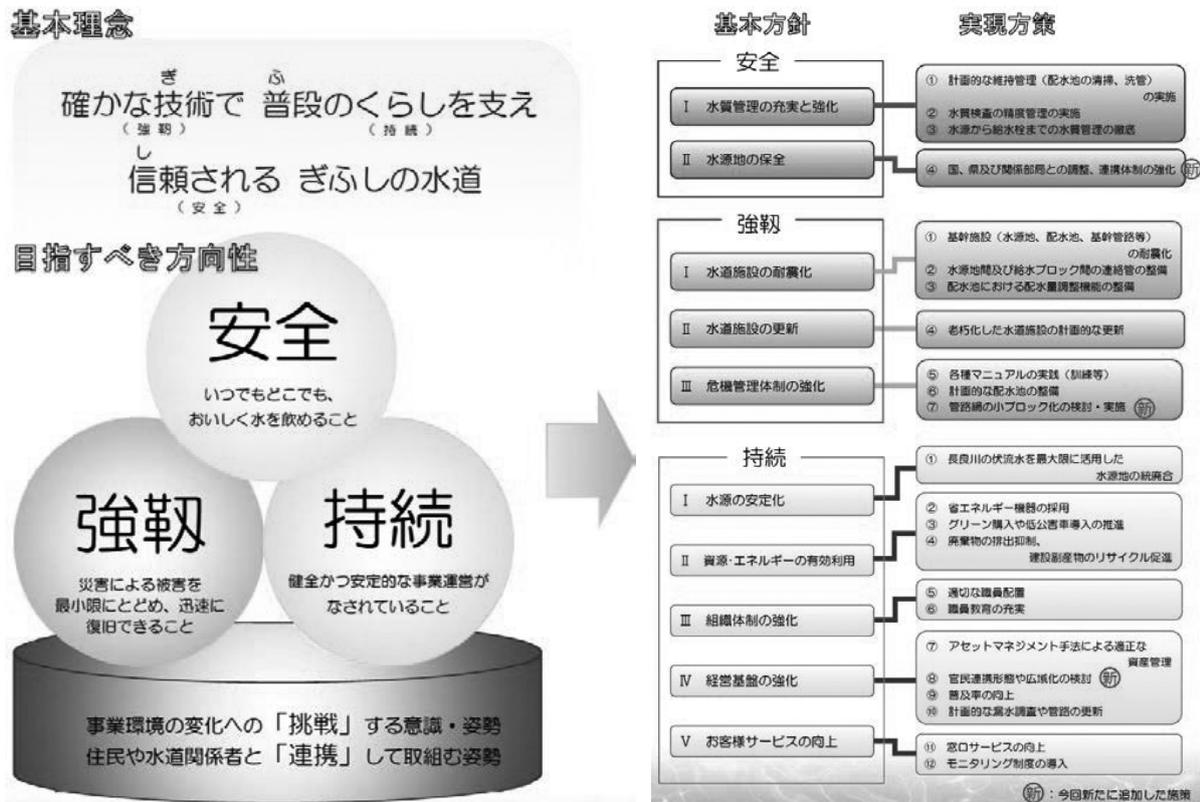
一方、国においては、平成16年に、厚生労働省が水道の将来像を明示した「水道ビジョン」を策定したが、人口減少社会の到来や東日本大震災の経験等、水道事業を取り巻く状況が大きく変化したことから、25年3月に「新水道ビジョン」を策定し、公表していた。



厚生労働省の「新水道ビジョン」の考え方にに基づき、同市水道事業が理想とする将来像を明示するとともに、その実現に向けて概ね10年間（平成36年度まで）に取り組む方策及び目標を示した基本計画となる「岐阜市新水道ビジョン」を策定した。

(2) 目指すべき方向（基本理念と実現方策）

本ビジョンの目指す将来像として、基本理念を掲げると共に、「安全」「強靱」「持続」の3つの観点を目指すべき方向性に、「挑戦」「連携」を推進させるための要素として、基本方針及び具体的な実現方策を設定している。



(3) 実現方策の概要

安全
<p>I 水質管理の充実と強化</p> <p>① 計画的な維持管理（配水池の清掃，洗管）の実施 配水池内部の清掃や水道管の洗浄を計画的に実施し，安全でおいしい水の供給に努める。</p> <p>② 水質検査の精度管理の実施 徹底した水質管理を実施するため，分析技術の向上，水質検査計画の策定と公表，水質検査結果の公表，放射能のモニタリング等の施策を継続する。</p> <p>③ 水源から給水栓までの水質管理の徹底 安全で安心な水道水を供給するために，「岐阜市水安全計画」の妥当性及び運用状況について，継続的な見直し（改善）を図る。</p> <p>II 水源地の保全</p> <p>④ 国，県及び関係部局との調整，連携体制の強化 【新規施策】 水源地及び周辺の保全や地下水の適正利用を図る取り組みに加え，水源地の上流域で水源事故等の不測の事態が発生した場合に備え，国，県及び近隣水道事業者や関係部局との情報伝達，連絡調整，連携体制等の強化に努める。</p>

強靱

I 水道施設の耐震化

① 基幹施設（水源地、配水池、基幹管路等）の耐震化

防災上重要な基幹施設として位置づけた施設のうち、耐震対策が必要な水源地、配水池、基幹管路及び防災上重要な管路については、優先的に耐震化を図り、災害に強い施設を目指す。

② 水源地間及び給水ブロック間の連絡管の整備

大規模地震等による災害や事故時において、バックアップ機能を強化するため、水源地間や給水ブロック間をつなぐ連絡管を整備する。

③ 配水池における配水量調整機能の整備

大規模地震により水道施設が被災した場合、配水池にて生活用水を確保するとともに、消火活動に支障が生じないように、消火栓への給水も可能とすることが重要であることから、配水池に開度調整弁の設置を検討し、生活用水等の応急給水を確保しつつ、消火栓への給水による二次災害の防止に努め、地震に強い水道システムの構築を目指す。

II 水道施設の更新

④ 老朽化した水道施設の計画的な更新

今後、更新時期を迎える老朽化施設や法定耐用年数を超過する管路の増加が見込まれることから、耐用年数の長い管種の採用等により長寿命化を図るとともに、アセットマネジメント手法を用いた長期的な資産管理と投資可能な財政収支の見通しに基づき、適正な施設規模による計画的な水道施設の更新に取り組む。

III 危機管理体制の強化

⑤ 各種マニュアルの実践（訓練等）

事故や災害等を想定し整備した各種マニュアル（水安全計画、業務継続計画（BCP）等）をもとに訓練を継続するとともに、必要に応じてマニュアルの見直しを行い、不測の事態への対応能力の向上を図る。

⑥ 計画的な配水池の整備

配水池容量が不足している給水ブロックについて、将来の水需要に応じた適正な施設規模で、順次整備を進める。

⑦ 管路網の小ブロック化の検討・実施【新規施策】

区域の拡張によって一部地域を除き全体的に配水圧力が高い傾向となっていることから、配水区域を小さなブロックに分割し、ブロック毎に水量・水圧を管理するシステム（管路網の小ブロック化）を構築するための調査・検討を進める。

持続

I 水源の安定化

① 長良川の伏流水を最大限に活用した水源地の統廃合

長良川の伏流水を最大限に活用する中で、小規模な水源地を廃止し、基幹となる水源地と統廃合するなど、事業認可に基づき水源地の統廃合を進める。

II 資源・エネルギーの有効利用

② 省エネルギー機器の採用

施設の更新時に、水需要に応じた適正な能力の機器を選定するとともに、経済性（ランニングコスト）を考慮した省エネルギー機器を採用し、電力使用量の削減を図る。

③ グリーン購入や低公害車導入の推進

グリーン購入のほか、環境保全に寄与するため、低公害車の導入を積極的に進める。

④ 廃棄物の排出抑制，建設副産物のリサイクル促進

廃棄物の排出抑制や，建設副産物のリサイクル促進を図り，資源の有効利用に努める。

III 組織体制の強化

⑤ 適切な職員配置

多くの技術や技能を有するベテラン職員の大量退職の動向を見据えつつ、適切に技術の継承が行なえる組織体制を構築するため、能力や実績に基づく適切な職員の配置に努める。

⑥ 職員教育の充実

これまで培ってきた管理技術ノウハウのデータベース化やマニュアル等を整備し、技術継承を図るとともに、事務管理能力、技術力の両面を強化するため、内部及び外部研修の充実に努める。

IV 経営基盤の強化

⑦ アセットマネジメント手法による適正な資産管理

計画的な更新と必要な財源の確保について、最新の情報に基づき、アセットマネジメント手法による適正な資産管理を継続的に実践していく。

⑧ 官民連携形態や広域化の検討【新規施策】

水道事業のサービス水準維持に十分留意しながら民間委託の活用拡大を検討し、事業運営の合理化を図る。また、水道施設の整備・改築において、事業主体やトータルコスト等から、民間との協働による最適な整備手法（DBO、PFI等）の導入を検討するとともに、公共施設等運営権方式（コンセッション方式）等の新たな企業経営の合理化の手法について研究や検討を行う。このほか、水道事業の運営基盤強化を図るため、近隣水道事業者との広域化について、料金徴収・水質管理・研修プログラム等の共同化等の検討を行う。

持続

⑨ 普及率の向上

広報や戸別訪問等の継続的普及活動に努め、自家用井戸から水道への切替えを推進する。

⑩ 計画的な漏水調査や管路の更新

有収率を向上させるための各施策を計画的に実施・検証することで、段階的に漏水量を減らし、有収率並びに有効率の向上を図る。

V お客様サービスの向上

⑪ 窓口サービスの向上

わかりやすい窓口案内，事務手続きの簡素化，窓口職員の実務能力の向上等を図るとともに，外国人のお客様の利便性を向上するため，外国語による案内を行う。

⑫ モニタリング制度の導入

お客様の水道に対するニーズ把握のため，モニタリング制度の導入について検討するとともに，水道利用者に対する意識調査の定期的実施を検討する。

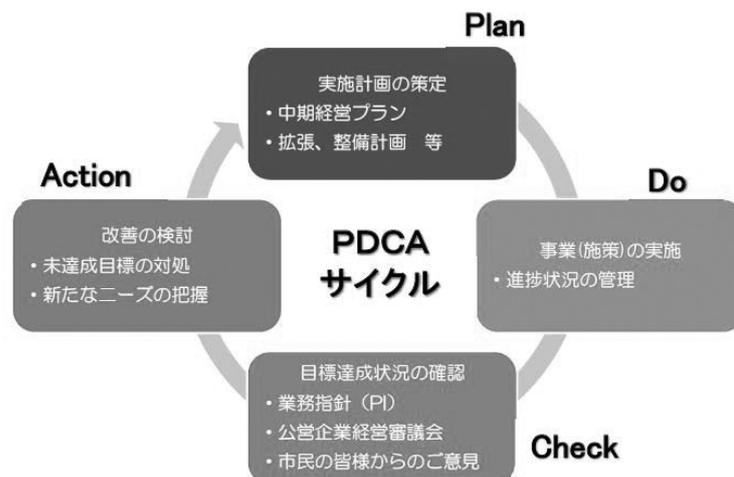
(4) ビジョンの実現に向けて

① 検討手法

具体的な実施計画を各種策定し，事業を実施するとともに，岐阜市公営企業経営審議会での審議内容，パブリックコメントの活用を通じた市民意見を踏まえながら，事業の進捗状況や推進に伴う問題点，事業の有効性等を明確にして，目標の達成に努める。また，目標が未達成の場合は，改善に向けて対応を図るとともに，取り組みの方向性や新たな課題への対応等，必要に応じて実施計画や本ビジョンの見直しを行う。

② フォローアップ

進捗管理にはPDCAサイクルを活用するとともに，目標達成状況の評価については，「水道事業ガイドライン」の業務指標（PI）等を活用し，ホームページ等で公表する。



【長野市】

南長野運動公園総合球技場の整備について

長野市は、平成10年の長野冬季オリンピック・パラリンピックに合わせて高速交通網が整備され、各地から良好なアクセスが可能である。そのメイン会場跡地に整備していた南長野運動公園総合球技場について、同市を本拠地とするJ3所属のAC長野パルセイロのJ2、J1昇格を見据え、27年3月までに、J1基準（収容人員1万5千人以上等）をクリアし、ラグビー等にも使用可能な総合球技場として改修しており、東北信地域のスポーツの拠点として、スポーツ振興はもとよりスポーツ文化の創造や交流人口の拡大による地域の活性化などにも寄与している。

1. 整備に至る経緯

長野市では、平成19年4月に策定した「第四次長野市総合計画」において“スポーツを軸としたまちづくりの推進”を基本施策に掲げ、また、23年に制定されたスポーツ基本法に基づき、総合計画の個別計画として策定された「長野市スポーツ推進計画」においても、地域密着型スポーツチームとの連携・協力により、スポーツの振興及び地域活性化を図ることとしてきた。

さらに、サッカーの観戦・競技人口の増加に伴い、当時の市内の競技場では利用者ニーズを満たせなくなり、サッカーやラグビーの各協会などからも国際試合やJリーグが開催可能なスタジアムの建設やグラウンドの増設の要望があった。

このような状況のなか、23年にホームチームであるAC長野パルセイロ（以下、AC長野）がJFLで準優勝し、国土交通省の補助で建設された南長野運動公園総合球技場の改修は、グレードアップであれば再整備が可能との確認を得て、既存球技場の改修を決定した。しかし、AC長野と市の間でJ2昇格目標時期について見解の相違があるなどとしてJリーグ準加盟が一旦見送られ、再申請のうえ、承認された。

事業費は80億円となり、短期間で経済的かつ利用しやすい整備とするため、設計・施工を一括発注するデザインビルド方式とし、公募型プロポーザル方式で発注した。設計・施工を分離した場合と比べ、デザインビルドにしたことで工期短縮が可能となった。

財源内訳

(百万円)

国庫補助金（社会資本整備総合交付金）	3,313
県費補助金	500
起債（公共事業等債）	3,444
寄附金（ふるさと納税）	175
一般財源	568
合 計	8,000

2. 建設工事の状況

(1) 材料

選定された案は、プレキャスト部材を積極的に用いる工法を採用することで長野市の想定より8ヶ月もの工期短縮を図れることが評価されたものである。工期短縮を目的に、柱、梁、段梁、段床、床板等を極力PC（プレキャストコンクリート）化し、現場での型枠設置、生コン打設や養生期間を軽減した。

施工項目	内容	平成25年度			平成26年度											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
直接架設工事																
土工事																
くい地業工事																
コンクリート工事																
型枠工事																
鉄筋工事																
鉄骨工事																
その他 躯体工事																
既成コンクリート工事																
仕上げ工事	防水、屋根、内外装 塗装、仕上げ、等															
設備工事	電気、上下水道 空調、EV、等															
外構工事	植栽、駐車場、等															

(2) 屋根

安全性、施工性、効率性等を向上させるため、屋根鉄骨（20m×22m 40t）を地組みし、350tクレーンで吊り上げて設置した。なお、長さ20mの屋根折板については、工場で製作すると輸送や搬入が困難であることから、現場で製作して設置した。

(3) 観客席

日本サッカー協会の意見をもとに検討した結果、当初計画していたサイドスタンドの立見席をイス席に変更した。これは、Jリーグなどの国内試合では立見席でよいが、国際大会の招致には、全席イス席であることが必要なためである。

また、改装前はベンチ席であったが、全て背もたれとカップホルダー付きのイス席となった。傾斜のある観客席では、飲み物を倒してしまった時に前方の席へ被害が広がることから、カップホルダーは必須である。また、2階席は傾斜がきつく、後ろの席からの接触を避けるため、従来製品より背もたれを15cm高くし、よりゆったり座れるようになった。

(4) 芝生

芝の育成養生には約2年必要であり、施工から短期間で使用するため、通常の倍（約5cm）の土をつけて切り取り、ピッチに敷設した。なお、芝の張り替えについては、1回につき約5千万円かかるため、芝生が傷むコンサート等の使用はできない。

種類としては、冷涼な気候を生かし、寒冷地芝のケンタッキーブルーグラスを使用している。

【参考】 鴨池陸上競技場

冬場に枯れてしまう暖地性の芝生（夏芝）の上から冬場も緑を保つ寒冷地性の芝生（冬芝）の種子をまくオーバーシードを行っている。

夏芝⇒ティフトン系、冬芝⇒ペレニアルライグラス

3. スタジアムの特長

以上のような経緯を経て、平成27年3月にスタジアムが竣工した。選手と観客の距離が近く、臨場感あふれる迫力あるプレーが楽しめる。

(1) スタジアム全体



メインスタンド側からの眺め



バックスタンド

- U字型スタジアム
古代ローマの競技場を彷彿とさせる、臨場感が高く機能性に富んだ形状である。
- 2層スタンド（南サイドを除く）
建物がコンパクトになり、全ての席で臨場感あふれる観戦ができる。最前列はタッチラインからの距離が10m高さが1.2mで、最後列でも距離が30mしかなく、選手と観客との一体感が生まれる。
- 全面屋根
サッカーはかなりの悪天候でも試合を実施するため、天候に左右されない快適な観戦環境を確保できる。
- テラスデッキ席
東西スタンドのコーナー部分には、以前あった芝生席を思わせる、大相撲の桝席のようなテラスデッキ席を設けた。イスは設置せず、最大4人まで入ることができるテラス単位で席を販売している。
- 観客用トイレ
トイレの待ち時間をできるだけ短縮できるよう十分な数を設置し、ハーフタイムの集中する時間帯に渋滞しないよう一方通行での利用としている。

2階

観客席です。観戦をするときは、2階から入ります。

▼ゲート

各コーナーに2カ所（全8カ所）ある入場ゲートを通り、1層・2層の観客席へ分かれます。



★観客用トイレ

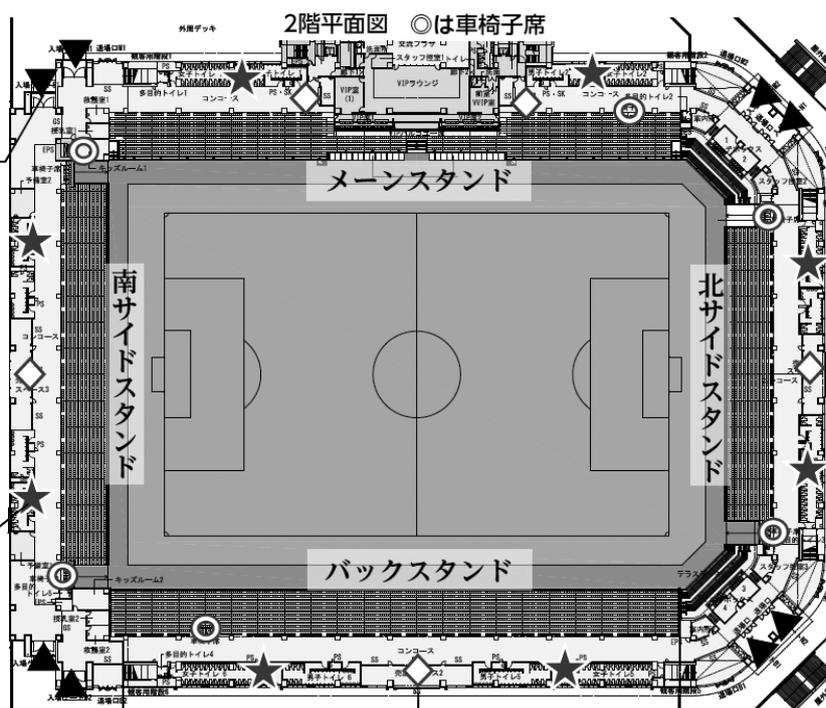
トイレの待ち時間をできるだけ短縮できるよう、各スタンドに2カ所ずつ設置し、一方通行での利用としました。

・トイレの数

男性用=大・小122基

女性用=148基

多目的トイレは5カ所に設置



◇売店スペース

メインスタンドに4カ所（2・3階に各2カ所）、北サイド・南サイド・バックスタンドに各1カ所設置しました。

(2) 環境との共生

○ エコスクリーン

スタジアムの外周に、風、照明、騒音などの軽減を目的とした「エコスクリーン」と呼ばれる、有孔折板を取り付けている。

(3) 天然芝への配慮

日本は特に夏に、高温多湿となり、風通しも悪いスタジアムは芝生の生育に適さない。そのため、以下のような対策を行っている。また、芝生が生育しやすい環境を確保するため、日本初のU字型の屋根を採用し、日当たりや通気等の環境にも配慮している。

○ 日照

南サイド（アウェイ側）のスタンドを1層にし、屋根を低くすることで、ピッチへの日光を遮らず、冬場でも日照を確保している。



南サイドスタンド

- 散水
自動制御の散水機をピッチ内に設置し、ハーフタイム等の短時間に十分な散水が可能
- 風通し
ゴール裏に当たる南北のサイドスタンド下にルーバー式の通風孔を設置している。
(試合時にはルーバーを閉じて、ボールへの影響を軽減している)

(4) その他の特長

- 明確な動線計画による部屋の配置
選手，VIP，報道，ボランティア，主催者等の動線を明確に分け，運営のしやすさやセキュリティを向上
- 同日に2試合が可能な更衣室
25人用ロッカールームを4室設置（ホーム，アウェー2室ずつ）



ロッカールーム

- 車両の通行が可能なコンコース
キッチンカーやごみ収集車等が通行可能
試合時など来場者が大量に移動する際も混雑を軽減
南サイドスタンド以外のコンコースは公園の園路として常時開放

(5) 課題

スタジアムの課題としては、風通しを良くした反面、侵入しやすくなっている鳥のフン害対策とのことであった。開閉式の屋根を持つ福岡のヤフオクドームですら、ドーム上部に鳩が見受けられるので、鳥対策は必須であると思われる。

4. スタジアム建設後の動き

長野市は平成27年9月から、運動公園全体の運営経費年間約2億3600万円に充てるため、AC長野がJ3の間は年1千万以上、J2になった場合は年2千万以上を希望額として、スタジアムのネーミングライツ（命名権）の導入を図った。しかしながら、応募がなく、翌年、愛称を付けて認知度向上につなげると方針転換し、市内外の410人905件の応募の中から「Uスタジアム」との愛称に決定した。これには、

- 球技場を上から見た時、英語のUの字に見えること
- みんな・あなた（You）のスタジアムという意味
- 友・遊・悠・結などの言葉を連想すること
- 古代オリンピックの競技場（馬蹄形球技場）のU字型をイメージして設計していることなどの意味が込められている。

全国状況としては、平成5年のJリーグ開幕により、空前絶後のサッカーブームが巻き起こったが、ブームが去った後は来場者の減少傾向に歯止めがかからなかった。近年は、上昇傾向にあるものの、各スタジアムでは天候に左右される、アクセスが悪い、トイレが少ない等快適に観戦できるための課題を抱えている。

そのような点で、ファン目線で数々の工夫が施され、細部まで多くの新しい技術が詰め込まれた南長野運動公園総合球技場は、市民の新たなレガシー（遺産）となりうるすばらしいスタジアムであり、地域活性化の新たな起爆剤となりうる存在である。

また、長野市によると、サッカー協会と協議を重ねた上で、スタジアムをJ1の最低基準で建設したとのことであるので、今後、J2・J1入りを目指す鹿児島ユナイテッドの新スタジアム建設の参考になるであろう。